令和７年度　学校安全指導者研修会

令和６年能登半島地震に関する学校安全について

石川県教育委員会
奥能登教育事務所　山岸　昭彦

本日お話しすること

１　はじめに
（１）ご支援への感謝とお礼
（２）珠洲市の紹介
２　防災に関する学習について
（１）令和４年度の取組
　①地震に備えての避難訓練
　②登下校時の安全確保
（２）令和５年度の取組
　①減災教育プログラム
　②珠洲市総合防災訓練
３　令和６年能登半島地震について
（１）令和６年能登半島地震発災後
　①発災後の状況
　②学校の状況
（２）学校の再開に向けて
　①学校の再開への準備
　②避難所との共存
　③学校の再開
４　おわりに
（１）学校安全指導者として
（２）学校の役割について

1　はじめに

（1）ご支援への感謝とお礼

◇　全国の学校から心温まるメッセージ
- 子どもたち、教職員の被災地への思いが心に響く
- たくさんの「思いやり、勇気、励まし」が心の支えになる

◇　全国の教職員による学校への支援活動
- 各県の学校支援チーム（宮城、三重、兵庫、岡山、熊本、京都）

ー「震災・学校支援チーム（EARTH）」（兵庫県教育委員会）ー

防災･減災に関する専門的な知識や実践的な対応力を備え、大災害発生時には避難所となった学校に派遣され、避難所開設や運営、学校の早期再開、心のケアなどに当たる現役教職員のチーム

1　はじめに

（2）珠洲市の教育について

見附島 −珠洲市HP−

①珠洲市の紹介

禄剛崎灯台 −珠洲市HP−

ー世界農業遺産に登録された能登の里海里山ー

美しい「自然」　豊かな「食」　この地を守りつづける「人」

石川県の能登半島の最先端にある、人口約１３，０００人の本州で最も人口の少ない市。

三方が海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた環境にあり、平成23年に世界農業遺産に登録された能登の里海里山に育まれた産業や伝統文化が根付く、地域資源溢れる地域である。

平成30年に内閣府より「ＳＤＧｓ未来都市」に選定され、持続可能な地域としての活力を保つための人口減少対策に取り組んでいる。

2 防災に関する学習について

（1）令和4年度

令和4年 4月 8日（金） 避難訓練 頻発する地震に備えて
6月19日（日） 最大震度6弱（15:08）
安否確認・校舎内外点検
6月21日（火） 避難訓練（地震）
登下校時の地震発生時の安全確保の指導
6月22日（水） 土砂災害への備え（砂防堰堤工事）
7月 5日（火） 避難訓練（津波想定）
生徒と教職員で高台の避難場所の確認
7月 8日（木） シェイクアウトいしかわ（県民一斉防災訓練）
8月 9日（火） 防災教育先進校視察
10月21日（金） 避難訓練（火災想定）
令和5年 2月28日（火） コミュニティ・スクール（学校運営協議会）準備会

2 防災に関する学習について

（1）令和4年度の取組

①地震に備えての避難訓練

・講義「あの日学校で起きたこと」～改めて災害時の対応について考える～
→校長先生が津波の避難先を教職員とともに見直したことで、東日本大震災の津波から子どもたちの命を守った。

生徒及び教職員の命を守ることを最優先に、校長として、
想定外を想定し、想定外の状況下で判断する責任

⇩

・津波を想定した学校近くの高台の避難場所を生徒と教職員で確認する

②登下校時の安全確保

・命を守るための具体的な行動について考える（徒歩通学、自転車通学）
・通学路での落下物や倒壊の危険がある場所を認識する
・状況に応じて、避難場所、学校、自宅への移動についての適切な判断をする

2 防災に関する学習について

（2）令和5年度

令和5年 5月 5日（金）	最大震度6強（14:42）	安否確認・校舎内外点検（～7日）
5月 8日（月）	全校集会・避難訓練	
6月30日（金）	防災講話（防災教育スタート）	
7月11日（火）	シェイクアウトいしかわ（地震・津波想定避難訓練）	
9月20日（水）	減災教育プログラム教員研修会（宮城県～23日）	
10月 1日（日）	珠洲市総合防災訓練参加 若山地区避難所開設訓練（中学生参加）	
10月10日（火）	学校安全総合支援事業（飯田高校研修会参加）	
10月23日（月）	防災教育（エキスパート学習：2年生） ・防災マップづくりコース ・地域で活躍する中学生コース ・防災・減災教室運営コース	
11月 9日（木）	救急救命講習（全校）	
12月 1日（金）	防災・減災学習講演会（地震のメカニズムを学ぶ）	

2 防災に関する学習について

（2）令和5年度の取組

①減災教育プログラム

1）活動の目的・ねらい

⑴ 過疎化・高齢化が進む地域において，頻発する地震に備えるための防災・減災に向けて中学生が主体的に考えて，地域の課題を発見すること

⑵ 課題を解決するための方法考えること

⑶ 地域の担い手として行動する意識を醸成して実践力を身につけること

2）主な実践内容・実践の流れ

⑴ 「防災講話」（全校生徒）
- 自分の命は自分で守ること
- 中学生ができることを実践事例から学び防災・減災学習への意識を高める

⑵ 珠洲市総合防災訓練への参加

⑶ 校舎裏で建設中の砂防堰堤ダムについて学ぶ

⑷ 珠洲消防署員よる救命救急講習の実施

⑸ 「能登半島を震源とする地震について～地震のメカニズムを知ろう～」 大学教授による講演会

⑹ 防災教育（エキスパート学習：2年生）
- 防災マップづくりコース（珠洲市危機管理室による講話、フィールドワーク）
- 地域で活躍する中学生コース（珠洲市危機管理室による講話、避難所開設訓練）
- 防災・減災教室運営コース（正しい情報をもとに小学生が学ぶ「防災・減災教室」の開催）

2 防災に関する学習について

（2）令和5年度の取組

②珠洲市総合防災訓練～地域防災について考える

1）地震・津波想定の訓練

- 家族や地域の方々と一緒に避難場所まで避難する訓練に参加する
- 防災訓練をきっかけに家族で防災について話し合うこと
- 訓練に参加して避難経路や避難場所が確認できたこと
- 地域の方々とお話しできたこと

→地域の防災について考える貴重な機会

2）若山地区での避難所開設訓練（若山小学校体育館）

- 若山地区の住民と保護者、中学生が参加する
- 若山地区の中学生は、避難所開設にあたり、若山地区の皆さんと力を合わせて、段ボールベッドの組み立て、テントの設営、救急救命講習（AEDの使い方・心臓マッサージ等）を学ぶ

→生徒の感想

「避難訓練を通じて知識・技術・自分たちの役割などたくさんの学びを得られた」

「中学生でもできることがたくさんあることがわかった」

「大勢参加していて自分たちの住んでいる地域の防災意識の高さを感じた」

⇧

学校運営協議会を基盤とした地域連携・PTA（家庭）との連携

3 令和6年能登半島地震について

（1）令和6年能登半島地震発災後（1月1日　16時10分頃）

①発災後の状況

- 最大震度7　1分程度の激しい揺れ
- 大津波警報
- 高台へ避難
- 生徒、教職員の安否
- 教職員からの連絡

  →学校に集まる多くの避難者の対応
- 道路の寸断と陥没、建物の倒壊、橋台背面の段差
- 翌日の行動を考える（学校へ向かう）

3　令和6年能登半島地震について

（1）令和6年能登半島地震発災後

②学校の状況

・学校が避難所となる
　自主防災組織の方々、市職員との打合せ
　避難している教職員との打合せ
・教育委員会との報告・連絡・相談
・保護者へのメール配信
・教職員による生徒の安否確認（電話、家庭訪問等）
・学校再開に向けて職員室、特別教室等の復旧

3　令和6年能登半島地震について

（2）学校の再開に向けて

①学校の再開への準備

・安心安全な日常を取り戻すために歩みだすこと

・心の安定と生活リズムの調整

・生徒の学びの機会の確保

・学校生活の環境を整えること

3　令和6年能登半島地震について

（2）学校の再開に向けて

②避難所との共存

- 教職員の避難所運営への協力
- 避難所での生徒のボランティア活動
- 学校再開への理解と協力
- 保護者が安心して復興に向かえるために
- 教職員の心のケア

3　令和6年能登半島地震について

（2）学校の再開に向けて

③学校の再開

- 1月22日（月）からの学校再開
- 友達との再会（安心して友達と楽しく過ごせる場所・時間）
- 中学生の集団避難について
- 全国及び県内の教職員による支援
- スクールカウンセラーの派遣

４　おわりに

（１）学校安全指導者として

①　実践事例に学び、自校の取組につなげる

＜視点＞　・現在の取組の見直しと改善
・学校の実態に応じた取組の実施
・家庭や地域との連携

防災教育に関する指導計画につなげる

４　おわりに

（２）学校の役割について

①　子どもたちの心の居場所
（安心して過ごせる、友達と楽しく過ごせる場所）

②　子どもたちにとって学びの場、学び合える場所

③　保護者が安心して通わせることができる場所

④　災害時における地域住民の拠り所
（地域住民の安全安心を守る場所）

４　おわりに

（２）学校の役割について

⑤　教職員にとって子どもたちを成長させる場所
（教育的愛情、使命感、指導力・専門性の向上）

⇩

防災教育のねらい

ア　適切な意思決定や行動選択ができる。（知識、思考・判断）
イ　自らの安全を確保するための行動ができる。（危険予測、主体的な行動）
ウ　学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる。（社会貢献、支援者の基盤）

４　おわりに

（２）学校の役割について

◇発災後に再会した生徒の言葉

◇言葉を聞いた先生（防災教育担当者）